

百八十三

日本坑法

東京
三
目

株式會社

328.569
N685



582106

寄贈
奥中孝三殿

日本坑法

第一章

坑物

第一

正理ヲ以テ論スルハ凡無機物タル者ハ生活
 ナキ諸都テ坑業ノ部分ニ屬ス此無機物品質ニ
 類ニ分ル即第一類ハ有鑛質第二類ハ無鑛質
 リ凡諸金屬ノ天然本質ヲ以テ出ル者或ハ他ノ

第五

試堀ヲ作サント欲スル者ハ鑛山寮ニ願出許可
ヲ得テ之ヲ行フベシ
試堀ヲ行フ為ニ必要ノ地面他人ニ屬セハ其償
金ヲ對談處分スベシ
地主ニシテ自ラ試堀ヲ企ル者ハ衆ニ超テ許可
ヲ得ヘキ分義アリトス然レモ自ラ試堀ノ資本
無クシテ他人ノ舉ヲ拒ミ或ハ不當ノ償金ヲ貪
ラハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シテ其

地ヲ買ヒクベシ

第六

試堀ニテ坑物発見スルハ直ニ見本ヲ添テ鑛
山寮ニ届出ツ可シ且試堀中ハ一月七月兩度毎
ニ前六ヶ月間ノ行業日數及工數并產鑛量ヲ開
報ス可シ
凡產鑛ハ借區券ヲ出テ得ル後ニ非テハ恣
一賣却スルヲ得ス若シ之ニ背カハ其全價ヲ沒
收ス可シ

第七

試堀ハ都テ一年間ヲ以テ期限トス若^{ニシキ}延期ヲ願
出ルニ實ニ未夕開坑ヲ決スルコトヲ得サル事理
判然^{ニシ}タラハ之ヲ許可スルコト有ル可シ

第八

試堀人廢業スルキハ第二十七款廢坑則ノ如ク
ス可シ此時ニ産鑛ハ鑛山寮ノ許可ヲ得テ賣却
シ第三十一款ノ坑物税ヲ納ム可シ
試堀人損失ニ因テ廢業スル事實判然タルニ於

テハ坑物税ヲ免スルコト有ルベシ

第三章

借區開坑

第九

開坑スル者ハ先ツ坑區ヲ得ベシ坑區ノ^{コトクキヤハ}廣狹ハ
其適實ナル起業ノ^ト目途ニ應シテ之ヲ得セシム
可シ

有鑛質坑ヲ開ク者ハ必ス製鑛ノ業ヲ兼ヌ可シ
凡借區開坑ハ鑛山寮ニ願出ヘシ此願書ニ其得
ント欲スル坑區ノ^{ソウリキツ}測量圖ヲ添テ出ス可シ

試掘ヲ經テ借區願出ル者ハ其坑區中別ニ地主
有リト雖モ之ヲ拒ムヲ得ス尤其處分ハ借區券
ヲ得ルノ後廿二款ノ如クナルヘシ

第十

願出ノ借區ハ鑛山寮官員之ヲ驗測シ標石ヲ植テ
境界ヲ識別スベシ
巡回官員歸報ノ後許可スベキハ工部全權ノ證
印ヲ以テ借區券ヲ附與スベシ

第十一

凡借區ハ通常十五年間ヲ以テ定期トス之ヲ終
ルニ至テ繼年期ハ新ニ願出スベシ

第四章 通洞

第十二

通洞ハ坑道ハ縱横ニ小坑ヲ穿テ通常トス別
一道路ノ大坑ヲ穿ツ我カ借區中ニ非スト雖ドモ
アリ之ヲ通洞トス我カ借區中ニ非スト雖ドモ
之ヲ企ルヲ得ヘシ此時ハ願書ニ目論見明細
圖ヲ添テ鑛山寮へ出スベシ若其通洞他人ノ借
區ニ且渉スヘキハ豫メ其借區入ニモ報知ス可

通洞ハ高九尺幅六尺ヨリ減スベカラズ是ヨリ
小ナルハ通洞トセス

第十三

願出ノ通洞ハ鑛山寮官員實地勘踏歸報ノ後許
可スベキハ工部全權ノ證印ヲ以テ免狀ヲ附與
ス可シ免狀ヲ得ルノ後若目論見圖ニ違ヒ方尙
ヲ轉シ或ハ距離ヲ延縮セント欲セハ更ニ鑛山
寮へ願出許可ヲ得テ之ヲ行フ可シ

第十四

借區人何レモ自ラ通洞ヲ開クベキ資本有ニ非
カレハ我區中タリト雖モ他人ノ拳ヲ拒ムベカ
ラス

通洞保全ノ為メニ其周圍ノ土石ヲ外ヨリ厚サ
一間半以内ニ掘入ルヘカラズ然レモ其跡ニ自
己ノ入費ヲ以テ支柱ヲ構造シ崩潰ノ患無カラ
シムル者ハ此限ニ非ス一旦坑物ヲ得カ為ニ
是如キ是也

第十五

通洞ニ因テ諸借區人便利ヲ得ルヲアラハ通洞
突起人ニ其謝金ヲ出スベシ若シ之ニ就テ對談
穩當ナラスハ鑛山寮ヨリ所斷スヘシ
通洞ヲ開ク者ハ借區人未定之所ニ於テハ通洞
ノ周圍内ヨリ出ルタケノ鑛石ヲ取ルヲ得ヘ
シ他人ノ借區中ニ於テハ此鑛石ノ一半ヲ借區
人ニ歸スヘン

第五章 坑業

第十六

都テ坑業ニ付テハ坑物ヲ坑中支柱ノ為ニ存ス
可キ所ノ外ハ成レ丈坑利ヲ遺スナク取出ス
ヘシ此法ヲ犯シ其他都テ坑ノ利用ヲ害スルモ
ノハ其輕重ニ隨テ罰金ヲ徵ス可シ

第十七

試堀開坑或ハ通洞等ヲ企ルニハ舎屋鐵道河流
及道路ノ如キ其害ヲ受ヘキ場所ハ度々計ラズ
ヲ避ケ殊ニ城堡ハ七十間以内ノ地ヲ避ク可シ
凡場所ノ主タル者應諾スルニ非スシテ此ヲ犯

ス者有レハ城堡其律ニ任シ餘ハ其損害ヲ償復スル
一倍ノ費額ヲ取テ本費ハ其主ニ附與スヘシ

第十八

凡初發許可ヲ得シ坑物ノ外ニ別種ノ坑物ヲ見
出ス者ハ速ニ鑛山寮ニ報知スヘシ之ヲ背ク者
ハ其坑物又ハ代價ヲ取揚クベシ

如此類ノ借區稅ハ第三十一條ニ照準シ高價ナ
ル方ノ例ヲ以テ納ムヘシ

第十九

開坑人ハ歲々一月七月兩度毎ニ前六ヶ月間ニ
産出セシ坑物量其賣出高並代價及行業日数工
数ヲ具記シテ鑛山寮ニ報知ス可シ

有鑛質ハ坑産量並製出量且製出セシ混濁物ニ
種以上ノ金屬ヲ含有スルハ其試験ノ割合ヲモ
具記シテ賣出高以下都テ前ノ如クスヘシ右数
量不正或ハ開報違期ノ罰ハ金五十圓トス若シ
賣出高並代價ヲ減書スル者ハ其減書セシ高ノ
三倍ヲ徵收ス可シ

第二十

通例開坑又ハ廢礦ヲ採製スルニモ一年間ノ事業ハ地面五百坪ノ下ニ就テ^{壯健ナル}一夫三百日ヲ以テ成ヒル程ノ工數ヨリ減スヘカラス若シ之ニ背ク者實ニ百方免レ難ク^{妨礙}判然タルニ有ラスンハ其業ヲ禁止スベシ

第二十一

坑業人ハ互ニ^{隣坑ノ}風通シヲ便利ニスヘシ且甲區ヨリ乙區ノ地中ニ水道ヲ通シ地上ニ要路

ヲ通セシヲ求ルニ於テハ不當ノ償金ヲ貪ル可ラス若相對ヲ以テ決セスンハ鑛山寮ヨリ^所断スベシ

右堀通シニ付テ出ル礦石ハ其所ノ借區人ニ屬スベシ

第二十二

凡借區人ハ區上ニ於テ^{藏庫}詰所作事場^{洗礦所}鑛^路所^ス通路等其他坑業ニ必要ナル地面ノ地主タル者ニ豫ノ償金ヲ辨ス可シ若シ^{異論}決セズ

ンハ鑛山寮或ハ地方官ニテ正價ヲ裁決シ其地
ヲ買取ル可シ

第二十三

總テ坑區ヨリ隣區ニ^{コウム}惠害損傷ヲ被ラシムル片
ハ之ヲ償フベシ若シ償金決セズンハ鑛山寮ヨ
リ裁決スベシ

第二十四

凡借區人其坑業ヲ年限中他人ニ讓渡ス如キハ
前以テ^{ソウホウ}雙方ヨリ鑛山寮ニ願出許可ヲ請フ可シ

若シ之ニ背ク者ハ其業ヲ禁止スベシ

第二十五

凡借區年限終リ又ハ法ニ背ヒテ其業ヲ禁止セ
ラレ或ハ自ラ廢業スルニ至ル者有レハ都テ其
借區ハ政府ニ還復シ其事業ニ就テ如何ナル^ク償
^ツ債アリト雖ミ總テ其坑山ニハ^ク關係セハル者ト
ス此時ニ當テ地中ノ^ク結構ハ坑山ニ屬シテ政府
ノ有タルヘシ

地上ノ^{イソカ}營造ハ其主ノ取去ルニ任スト雖モ其^ク地

ノ地面ハ完全ニ修復ヲナスベシ

第二十六

坑業人ハ其坑山地方ノ住民同様トス因テ其地方官ノ諸法令ヲ遵守ス可シ

第六章

廢業

第二十七

坑業ヲ廢セント欲スル者ハ堅坑ノ口ヲ掩シ又柵圍ヒスハシ鑛山寮ヨリ其堅坑ヲ當然ニ堅同ニセシヤ且坑内ノ營繕完全存在スルヤヲ檢査

スヘシ若疎漏アツハ鑛山寮ニ於テ是ヲ繕治ス可キ費額ノ一倍ヲ徵收スベシ

第二十八

鑛山寮ヨリ疏水ヲ命スルニ背キテ其事ヲ行ハズ之が為ニ坑中廢没スルニ至ル者ハ其業ヲ禁止ス

第七章

製鑛所建築

第二十九

凡開坑入坑山外ノ場所ニテ有鑛質物ヲ製出セ

シ為ニ建築スヘキモノアラハ先鑛山寮ニ許可
ヲ請フ可シ

第三十

已ニ製煉セシ鑛物ヲ精製シ荒銅ヲ下銅掉銅ニ作
スル類スル職業ノ者ハ起業ヲ鑛山寮ニ報知シ
六ヶ月毎ニ元鑛量並製出品量等ヲ具記シ鑛山
寮ニ開報スベシ

第八章

稅納

第三十一

鐵ヲ除クノ外有鑛質物ヲ採取スル坑區ハ面積
五百坪毎ニ一ヶ年金壹圓ツ、借區稅トシテ每
年一月ニ前一ヶ年分ヲ鑛山寮ニ納ムヘシ借區
地租ニ關シ鐵及ヒ無鑛質ノ諸物品ヲ採取スル坑
區ハ面五百坪ニ付前条ノ半高ヲ納ムヘシ即金
五十錢トス
鑛質ヲ採取スル坑區ハ面千坪ニ付常例ノ稅額
ヲ納ム可シ
開坑區面五百坪鑛區面千坪トニ足サルモノ

ハ總テ右面積ノ比例ニ隨テ納ムベシ
借區初年ノ區稅八月割ニテ納ムベシ
前書借區稅ノ外ニ採製セシ金屬及諸坑物ニ就
テ代價百分ノ二ヨリ百分ノ二十迄ヲ坑物稅ト
シテ毎年一月七月兩度ニ鑛山寮ニ納ム可シ
但稅額ノ儀ハ其坑業ノ盛衰ニ隨ヒ鑛山寮ヨ
リ命スベシ

第三十二

試堀開坑或ハ通洞等ニ付テ前後諸條款ニ記セ

ル稅或ハ罰金償金等ヲ納メサルハ其業ニ屬ス
ル所ノ運移スヘキモノ殘ラズ鑛山寮ヨリ入札
拂ニシテ代價ノ中ヨリ不納高ヲ引去リ其殘金
ハ之ヲ本人ニ還付スベシ

第三十三

凡坑法ノ意旨ニ戾ル過失アル者ハ輕重ニ隨テ
罰金ヲ命スベシ若事業疎畧ニシテ人命ヲ失ハ
バ國律ヲ以テ論處ス可シ

右章款ニ記載セル方法ハ明治六年九月一日ヨリ

施行スベシ従前ノ法則及ヒ舊習等若シ此法ニ得
續シテスル者ハ都テ廢停タル可シ

坑法附示

坑業及製鑛ノ業ヲ舉行スル者西洋ノ學術及工作
ヲ用ヒンガ為メ一定ノ給料ヲ以テ外國技術家ヲ
雇入ル、カ如キハ我坑産損益及ビ所有物ニ關係
スル事無キニ因テ坑法第四款ノ禁ニ觸レズ然レ

氏之ヲ雇入ル、以前其職業給料及年限ヲ分明ニ
記載シ其案紙ヲ鑛山寮へ送呈シテ結約ノ許可ヲ
可請候事

書類式様

表面ニ 試堀願

某縣某村某田某職業
某

試堀願

私儀某縣管下某國某地ニ於テ何礦ヲ掘得、夕覺候故先試堀仕度候間御聞届被下度奉願候以上

年號月日

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某印

前書願出之趣御聞届相成度候也

年號月日

某縣令某印

試堀人ニ與ル證

某縣某地某位置^ナ誰地ニ於テ某貫籍某職業某何礦試堀願之通聞届候迄日本坑法ニ違反致聞鋪者也

年號月日

鑛山寮印

表面ニ借區開坑願

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某

借區開坑願

私儀某年月某地ニ於テ試堀相願候處何鑛發見^{タシ}又後來何鑛ヲ掘出候ニ付別紙圖面之場所^{ス、キ}見込ニ付於テ借區開坑被差許度此段奉願候以上

年號月日

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某印

前書願出之通御聞屆相成度候也

年號月日

某縣令某印

借區券

某年月某地幾方面某貫籍某職業某某境界云々之
場所ニ於テ別紙圖面之通十五ノ年間借區開坑差
許候在日亦坑法ヲ確奉可致者也

年號月日

工部全權某印

表面ニ
通洞願

某縣貫籍某國某郡某村某職業
某

通洞願

私儀疎水運輸或探礦ノ為ニ通洞堀通シ度右通洞別紙圖面之
某場所ニ有之候尤通洞之地位ニ當リ候借區ノ主
某ニ報知仕置候右通洞堀方御聞屆被下度奉願候
以上

年號月日

某縣貫籍某國某郡某村某職業

某印

前書之通御聞屆相成度候也

年號月日

某縣令某印

通洞券

某年月願出候某貫籍某職業某某地ニ於テ別紙圖面之通通洞堀通候事差許候尤日本坑法ヲ確奉可致者也

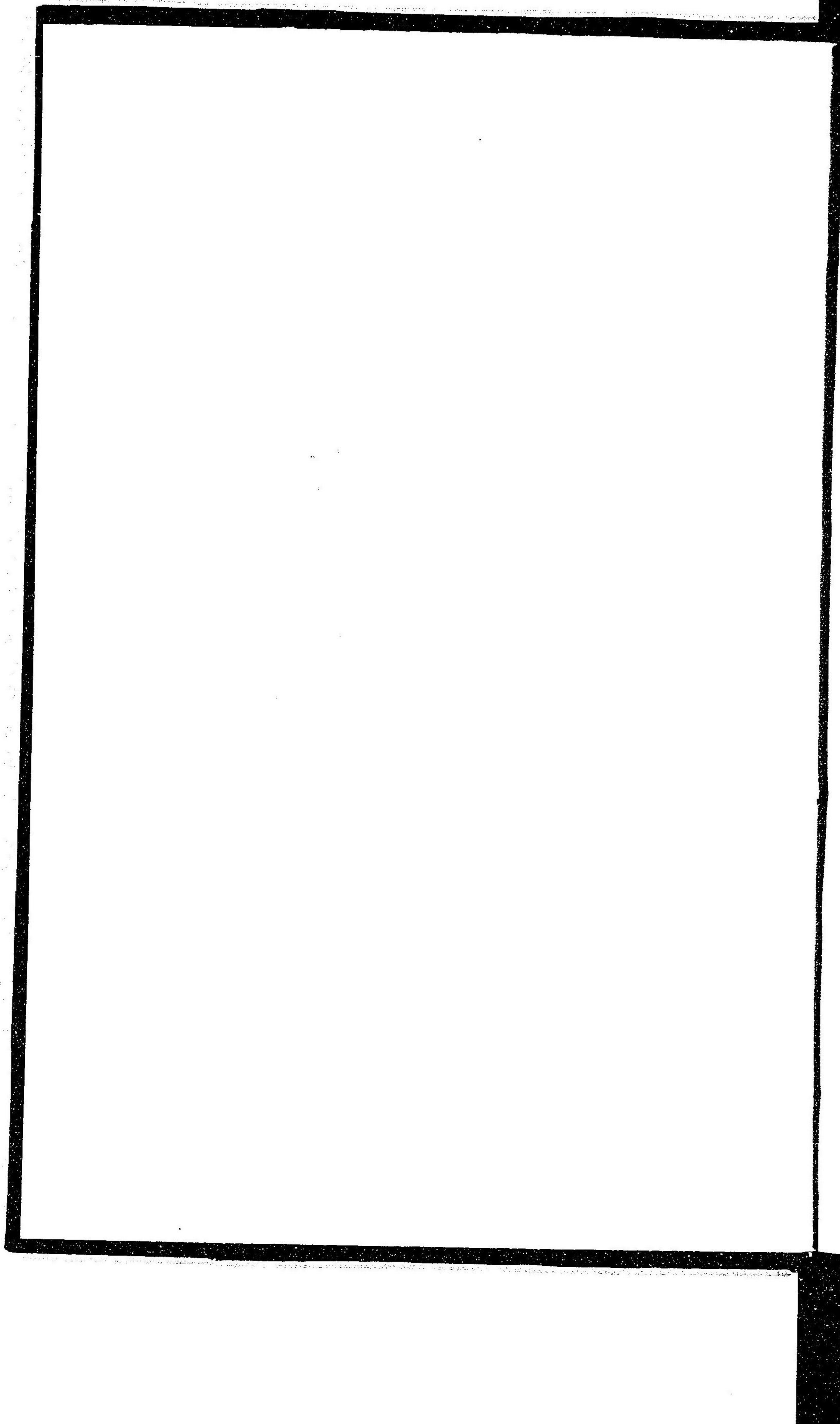
年號月日

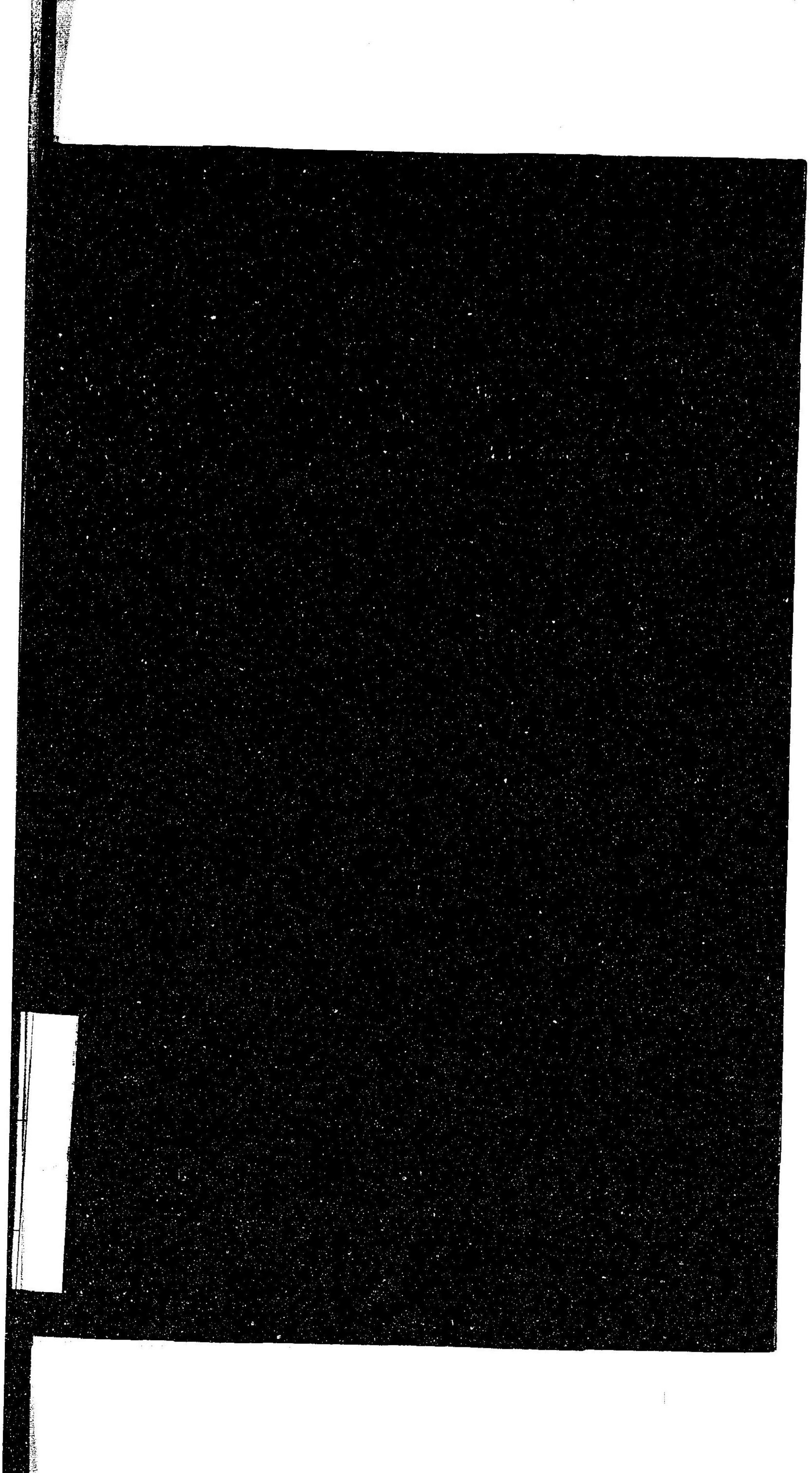
工部全權某印

7

入

五
德
村





Small, illegible text or markings on a white rectangular strip located at the bottom left corner of the black area.

328.569
N685

037735-000-4

328.569-N685

日本坑法

博聞社

[刊年不明]

BBU-0370



